



新岡山市民病院だより 総集編

Kitanagase Wind
2015.4

北長瀬の風

新病院ご案内

便利で機能的に
生まれ変わりました!

- ごあいさつ
- フロアガイド
- 診療科紹介
- 医師紹介
- 外来診療担当表



「医療といえば岡山」と誇れるまちをめざして



岡山市長
大森 雅夫

近年、わが国では、超高齢社会の到来等を背景に、医療ニーズが高度化・多様化し、医療現場を取り巻く環境が一段と厳しさを増しており、医療従事者の確保・育成をはじめ、最適な地域医療体制の構築が急務となっております。

岡山市におきましても、市民の約4人に1人が65歳以上の高齢者となる中、高齢になっても誰もが、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの実現に向けて、豊富な医療・介護資源をいかし、最適な地域医療体制の構築と、予防・診療から介護まで切れ目のないサービスを受けられる仕組みづくりを進めているところです。

こうした中、5月7日に開院する新しい市民病院では、24時間365日全ての症状の救急患者を受け入れ、初期診療を行うER型救急を実施するとともに、病気や加齢により療養を余儀なくされた患者やその家族、あるいは保健・福祉・医療関係者からのご相談への対応や情報提供を行う「岡山市地域ケア総合推進センター（在宅医療・介護 ほっ♥と安心相談室）」を院内に設置し、在宅医療・介護の推進並びに市民の療養生活を支援するための中核拠点としての役割を果たしてまいります。

市民並びに関係者の皆様方には、岡山市の在宅医療・介護の推進並びに地域包括ケアシステムの構築に向けて、当センターを積極的にご活用いただくとともに、今後とも、岡山市の保健福祉行政の推進に、一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「市民にとって最高の病院づくり」の新たな第一歩



地方独立行政法人
岡山市立総合医療センター
理事長
岡山市立市民病院 院長
松本 健五

市民病院は昭和11年に開院、これまで80年近くにわたり天瀬の地にて市民の健康増進と福祉の向上に貢献してまいりました。建物の老朽化等に伴い、市民病院のありかたについて、医療関係団体、市民団体など広く市民の方々と10年余にわたり討議されました。その議論を踏まえ、平成22年2月、役割・機能、診療体制などについて基本構想が作成され、北長瀬の地に新築移転となり、25年2月に着工、2年の歳月を経て建設工事が竣工し、今日のよき日を迎えました。関係各位の多大なるご尽力、ご支援が実を結びました。おかげさまで「市民にとって最高の病院づくり」の新たな第一歩を踏み出すことができます。衷心より厚く御礼申し上げます。

新市民病院の役割として、救急医療（岡山ER）、教育・人材育成、災害対応があげられます。それらの機能に加え保健・医療・福祉の連携があります。優れた他の医療機関等と役割分担を行い、地域医療のネットワークの構築を目指します。

白く新しい建物、快適性、プライバシーに配慮した明るく広い病室など、これまでとは格段の良質な療養環境、また、最新の医療機器導入により、さらに質の高い医療を提供することができます。

建物は一新しますが、市民のみなさんが親しみを持って来院され、気軽に声をかけていただけるアットホームな雰囲気はしっかり受け継いでいきます。「市民病院は市民のためにある」という開院当初の理念は忘れません。

当院の基本理念である「心・技・体」のもと、質の高い医療に加え、安心と感動を提供すべく職員一同、引き続き努力を続けていきます。

今後とも、ご支援、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

新岡山市立市民病院 開院に寄せて



岡山市議会議長
則 武 宣 弘

このたび岡山市立市民病院が新築移転となり、5月からめでたく開院の運びとなりますこと、心からお喜び申し上げます。

振り返りますと、高谷前市長就任後、市民病院のあるべき姿について専門家も交えた諮問機関において検討を重ね、さらに議会、常任委員会でも議論が繰り広げられてまいりました。救急医療、各医療機関との連携等の観点から、北長瀬表町への立地、独立採算経営の地方独立行政法人化等慎重な審議が行われた結果、この度大森市政において実現の運びとなりました。開院にあたり、並々ならぬご尽力を賜りました多くの関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。

新市民病院は、24時間365日全ての症状の患者を受け入れる救急医療、災害医療、人材育成など、政令指定都市にふさわしい病院機能を有するとともに、新市民病院内には、岡山市の行政機能である岡山市地域ケア総合推進センターも開設され、予防・診療から介護まで切れ目のないサービスを提供できる体制の構築に取り組まれますと伺っております。新市民病院の開院は、市民の安全・安心な暮らしにこれまで以上に貢献するものと期待いたしております。

岡山市議会といたしましても、超高齢社会を迎える中、引き続き市当局と連携しながら市民の健康寿命の延伸に向けた様々な取り組みを進めてまいりますので、どうか新市民病院におかれましては、70万岡山市民の安全と安心を支える全国に誇れる中核施設として、限りないご発展を遂げられますことを心から祈念いたします。



新市民病院の特徴 3つのポイント

1

岡山ERの創設

従来から取り組んで来た“ことわらない救急”をさらに発展させ、24時間365日、すべての救急患者さんを受け入れて初期診療を提供する救急医療（ER）体制を整えました。救急専門医・総合内科医が中心となり各専門診療科と協力して救急センターを構成、どのような症状でも安心して受診できる「岡山ER」を実践します。1400㎡の広さを有する日本で最大規模となる岡山ERはCTやMRIなどの検査設備を併設しており、緊急を要する患者さんへの迅速な対応を可能にしています。 [\[10ページで紹介\]](#)

2

専門医療のセンター化

専門的なチーム医療を提供するために、臓器別・疾患別のセンター化を採用しました。なかでも、よりレベルアップするのが脳疾患への対応です。脳血管内治療の専門医が2名（うち1名が指導医）、脳卒中リハビリテーション認定看護師が2名在籍し、神経内科医や精神科医も合流。5～6名の脳神経外科医が24時間体制で手術・治療に当たります。 [\[11ページで紹介\]](#)

3

ワンストップサービスの提供

予防、診療から介護までの総合相談や情報提供がワンストップで受けられるように、入退院センターと岡山市の地域ケア総合推進センターを設置します。保健・医療・福祉がスムーズに連携できるように市民病院がコーディネート。市の制度などを知らずに損をしている方もいらっしゃるので、“賢い病院のかかり方”もお伝えします。 [\[7ページで紹介\]](#)



フロアガイド

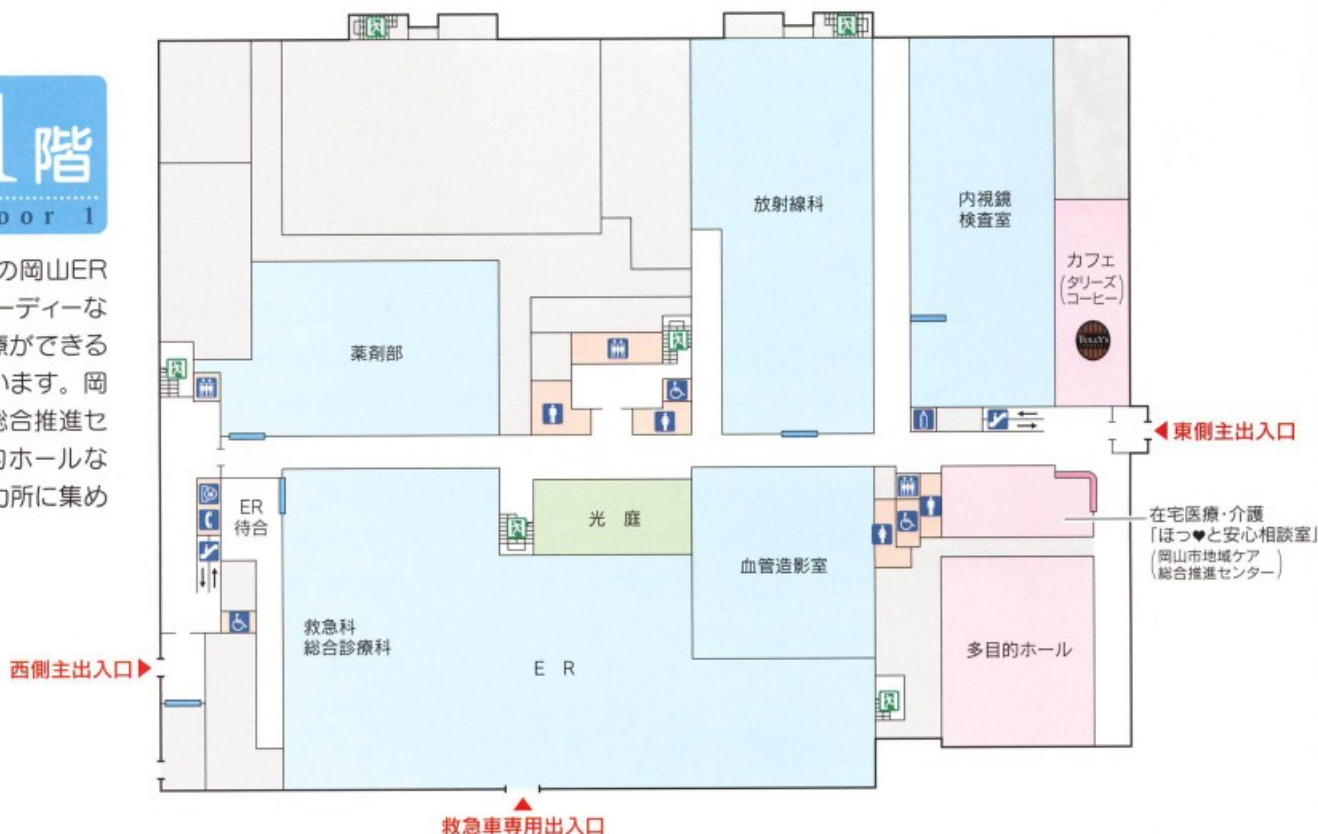
FLOOR GUIDE

- | | | | |
|---------|--------|---------|-----|
| エスカレーター | 多目的トイレ | TELコーナー | 非常口 |
| エレベーター | 子供用トイレ | ATMコーナー | |
| トイレ | 授乳室 | 自動販売機 | |

1階

floor 1

日本最大規模の岡山ERを中心に、スピーディーな検査・診断・治療ができる体制を整えています。岡山市地域ケア総合推進センター、多目的ホールなどの施設を一カ所に集めました。



2階

floor 2

総合受付と総合案内があり、ホスピタルモールを中心に外来、検査、医事部門がワンフロアに。東側出入口のテラスはJR北長瀬駅と直結、西側出入口は立体駐車場の2階と直結しています。



「1階 カフェ」
タリーズコーヒー

「2階 レストラン」
エッセン

一般の方も
ご利用
いただけます

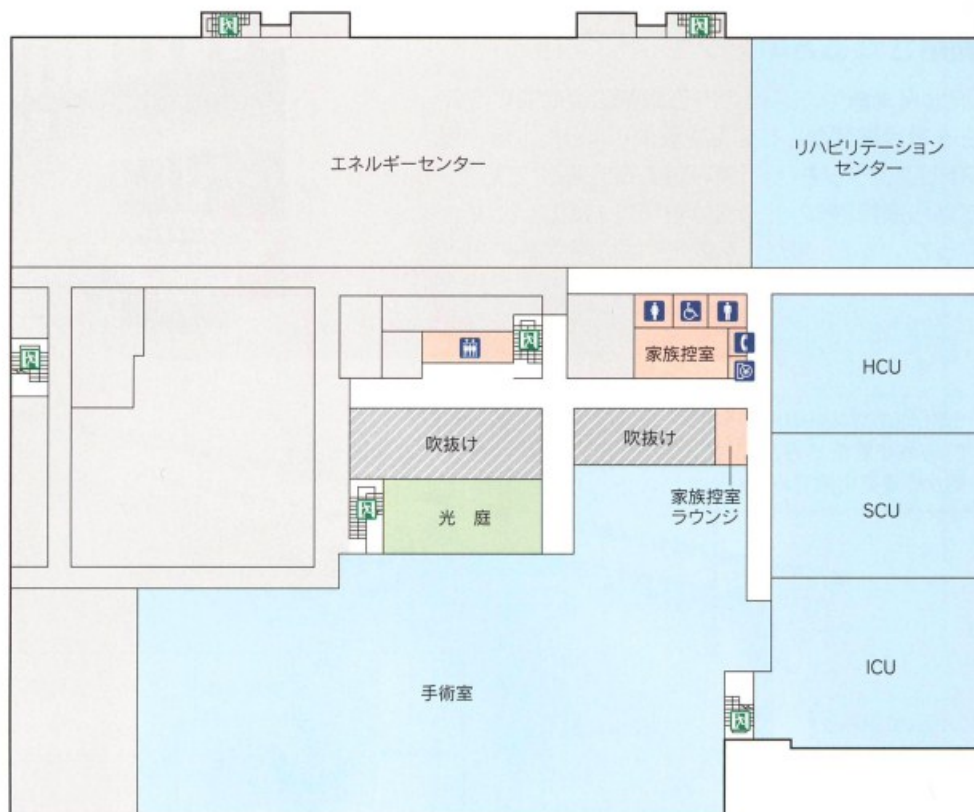
「2階 売店」
セブンイレブン

3階

floor 4

1階のERと直結した手術室と集中治療部門(ICU、SCU、HCU)を中心に、中央診療機能が集約されています。病棟からアクセスしやすいリハビリテーションセンターも配置。

SCUとは脳卒中ケアユニットのことで、急性期の脳血管障害の患者さんを受け入れる専用の病床です。



4階

floor 4

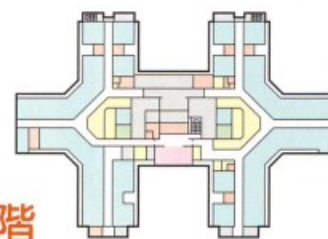
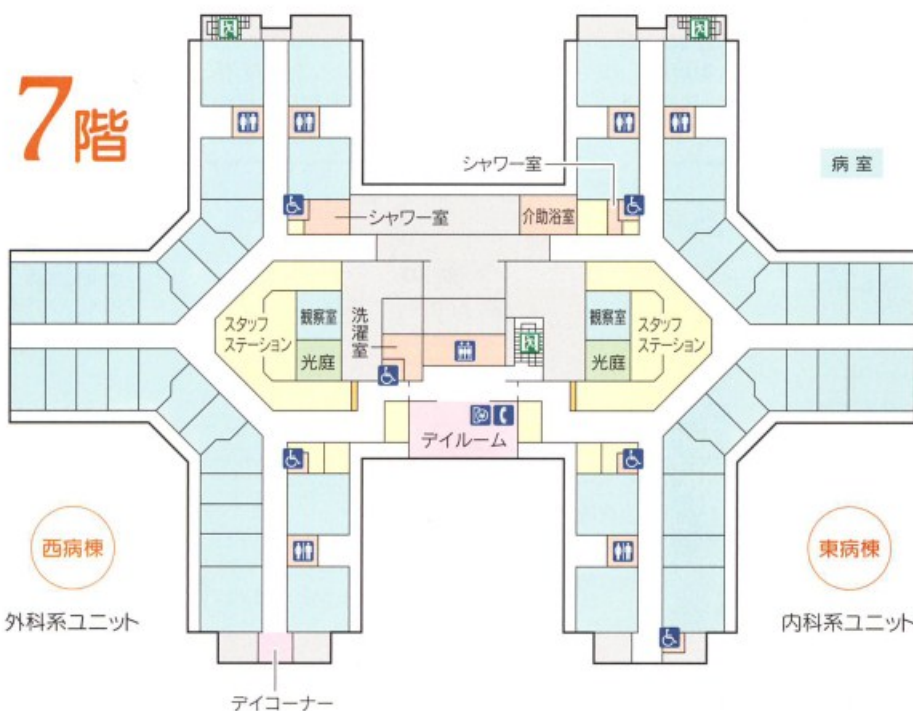
スタッフ専用フロア

病棟

[5~8階]

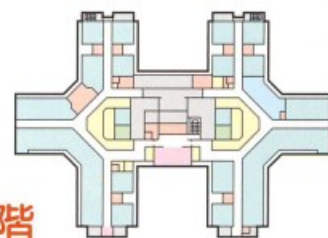
floor 5~8

5階から8階までが病棟です。1フロアに2病棟が入り、全400病床のうち個室は120室あります。中央部分にスタッフステーションが配置されているので、患者さんとの距離が近く安心感があります。



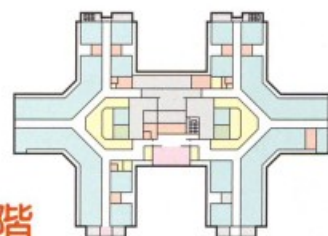
5階

西●結核病床 感染病床・内科系ユニット
東●外科系ユニット



6階

西●小児科 外科・内科系ユニット
東●産婦人科 外科系ユニット



8階

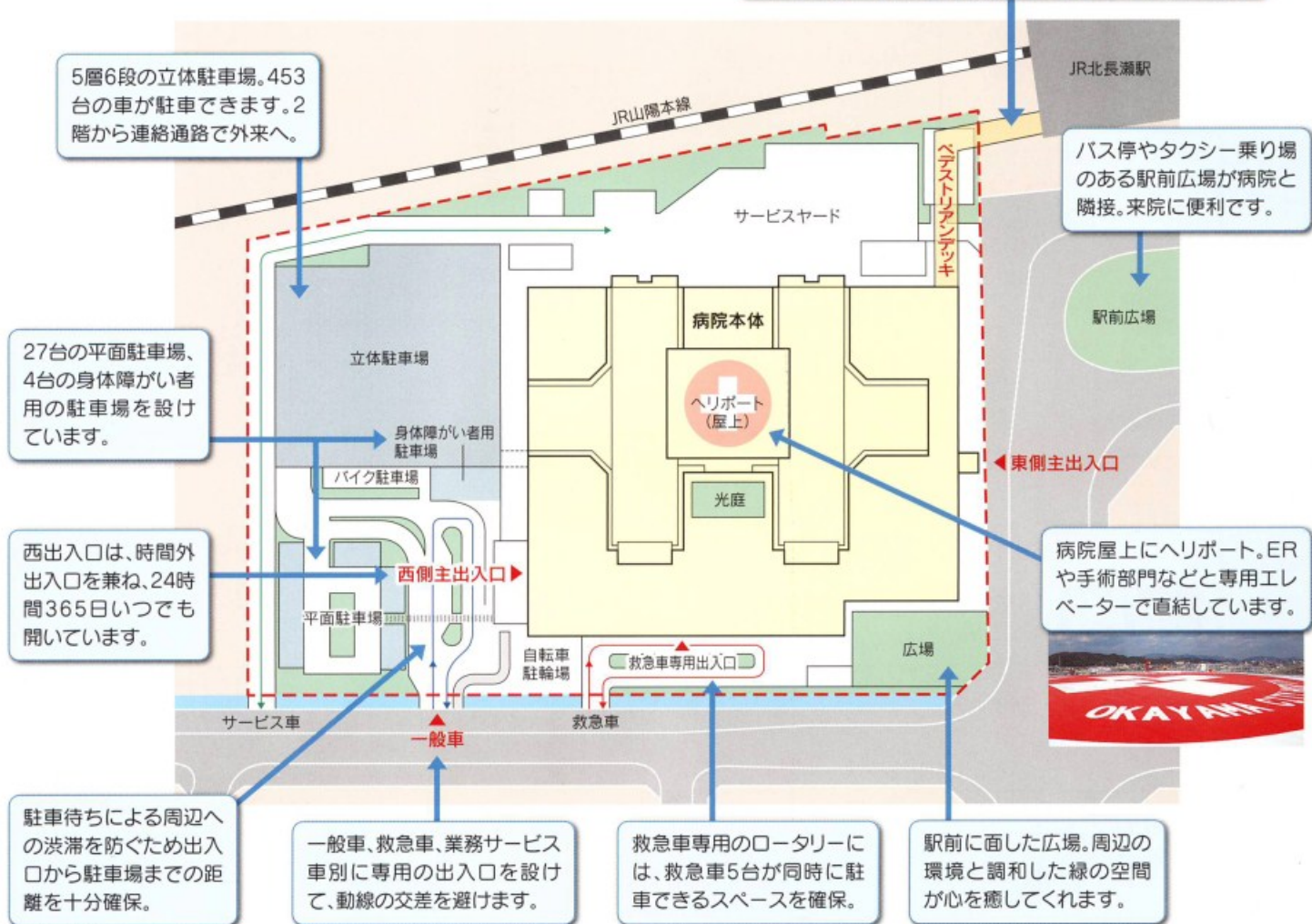
西●内科系ユニット 東●血液内科・無菌室

電車やバスでの来院も便利 利用される方のアクセスに配慮した病院配置

JR北長瀬駅やバス停のある駅前広場に隣接する立地の良さを最大限活かして病院を配置しました。駅と病院をペDESTリアンデッキ(歩行者専用的高架通路)で結び、改札を出てから病院2階の外来へは最短でお越しいただけるようになっています。また、敷地内には広場や緑を設け、「都市の森」にふさわしい環境も整えました。



2階の東出入口はJR北長瀬駅とペDESTリアンデッキで結ばれ、雨の日も傘を差す必要がありません。



西 棟		東 棟
病室(851~883号室) 内科系ユニット	8階	病室(801~833号室) 血液内科・無菌室
病室(751~783号室) 外科系ユニット	7階	病室(701~731号室) 内科系ユニット
病室(651~681号室) 小児科 外科・内科系ユニット	6階	病室(601~627号室) 産婦人科 外科系ユニット
病室(551~578号室) 結核病棟 感染病棟・内科系ユニット	5階	病室(501~533号室) 外科系ユニット
スタッフ専用エリア	4階	スタッフ専用エリア
手術室	3階	ICU、SCU、HCU、リハビリテーションセンター
外来診療 〔内科、神経内科、看護外来、外科〕 整形外科、リウマチ科、形成外科 脳神経外科、皮膚科	2階	総合案内、総合受付 入退院センター、医事課、地域医療連携室 外来診療 〔産婦人科、泌尿器科、麻酔科、小児科〕 耳鼻いんこう科、眼科、健康診断、栄養相談 レストラン、売店、自販機コーナー
外来化学療法室、採尿・採血・点滴室 生理検査室、ATM		
ER(救急)受付、救急科、総合診療科 薬剤部(お薬窓口)、時間外窓口	1階	放射線科、内視鏡検査室、血管造影室、カフェ 岡山市地域ケア総合推進センター、多目的ホール

1階床下に耐震安全性が優れた「免震装置」を配置しています

全400病床
(ICU6床、SCU3床、
HCU4床を含む)

ペDESTリアンデッキ
(歩行者専用的高架通路)

J R
北 長
瀬 駅

岡山市民は誰でも利用できる施設が1階にオープン

岡山市地域ケア
総合推進センター

通称

在宅医療
・介護

ほっ♡と安心相談室

岡山市民のための「保健」「医療」「福祉」「介護」サービスの 総合相談・情報提供の窓口です。

市民病院の中にありますが、岡山市が直接運営する独立した市の出先機関です。病気のことや退院してからのこと、在宅医療や介護などのサービスや制度について、相談の対応と情報提供を行います。

患者さんやその家族、市民の方

- 寝たきりのおばあちゃんが退院してくるけど、どうしたらいい？
- 在宅医療や介護のことを知りたい
- 病院以外の場所(自宅や施設)で療養したい
- がんの治療や生活面の不安を聞いてほしい

相談



情報
提供

在宅医療・介護「ほっ♡と安心相談室」

医療・介護などのあらゆる相談に対応します。
内容に応じて、必要とされる病院、診療所、介護施設、看護・介護サービス、行政機関に橋渡しをします。



1

岡山市の
運営だから
市民は誰でも
相談できます

2

市民病院以外の
他の医療機関に
かかっている方も
相談できます

3

相談室は
保健師や社会福祉士の
専門資格を持つ
10名程度の市の職員が
対応します

4

上手な
医療のかかり方や
在宅医療・看取りに
ついて、市民向けの
講座・研修会を
開催します



在宅医療の推進、医療と介護の連携を強化

- 在宅医療・在宅介護専門職のネットワークづくり
- 情報の収集・提供の仕組みづくり
- 市民が安心して暮らせる体制づくり
- 専門職からの相談対応、人材育成

市民の在宅療養を
支える専門職の資質向上

地域包括支援センターの活動支援・認知症ケアの推進(平成27年5月7日より稼働)

- 地域包括支援センターと共に認知症の困難事例の対応をします
- ケアマネージャーや地域包括支援センターの相談支援を行います

認知症ケアの
バックアップ

相談方法



電話相談

相談員が、医療や介護などに関する
悩み事や不安などの相談をお聞きます。

専用
相談電話 平成27年5月7日から
086-242-3170



面接相談

当相談室にお越しいただくと、
相談員が直接
お話を伺います。



相談時間

月曜日～金曜日/8:30～17:15
土曜日/8:30～17:15(電話のみ)
日・祝・年末年始/
8:30～12:00(電話のみ)

多目的ホール (300人収容)



講座イメージ

市民への啓蒙活動のための拠点のひとつです。市や市民病院が主催する市民向け講座・研修会などに使用されます。

新設医療機器紹介

新病院で導入する
主な医療機器をご紹介します

CT装置

2管球MDCT(192スライス×2)

(シーメンス社製 SOMATOM Force)

最新型の192スライスの管球を2個搭載したCTです。超高速撮影(全身が2秒)が可能となったことで、造影剤も大幅に減量でき、息止め不可能な小児の心臓も鮮明に撮影可能です。さらに2管球を用いて高エネルギーと低エネルギーの同時スキャンにより組織分別や組成解析も可能となりました。大幅な被ばく低減効果と高画質をトレードオフなしに実現する次世代CTです。



128スライスMDCT

(シーメンス社製 SOMATOM Definition Edge)

一般診療におけるルーチン検査から心臓、全身外傷まで様々な検査に対応可能なハイスペック128スライスMDCTです。ガントリ径も広く設計され、高速スキャンにより安全で、迅速な検査ができます。さらに体型や検査目的を考慮し、自動的に線量コントロールが可能で被ばく低減と高画質を両立します。



MRI装置

MAGNETOM Skyra 3T (シーメンス社製)

最先端のMRIテクノロジーとアプリケーションを搭載しています。なかでもMRI検査で問題となる「狭さ」と「大きな音」の改善がなされています(70%減)。装置の開口径は70cmと広く、奥行きも短いので圧迫感が軽減されています。また最新の静音技術「Quiet Suite」により、高画質を保ち検査時間の延長を抑えつつ従来の70%以上の騒音低減が可能となっています。他にも金属アーチファクト軽減技術など検査部位に応じた多くの技術があり、被験者にやさしい質の高い画像が提供できます。



MAGNETOM Aera 1.5T

(シーメンス社製)

磁場強度の違いのみで3Tと同様のアプリケーションを搭載し、救急症例をはじめ24時間体制で稼働します。



血管造影装置

IVR-CT

(シーメンス社製 Artis zee TA CT SOMATOM Definition AS)

最新の高度診断モダリティであるIVR-CTシステムを導入しました。これにより、血管造影装置単独では対応困難な症例にも専用CT装置導入による診断能力向上により対応可能となり、肝臓癌の腫瘍塞栓、外傷性出血による緊急力テータル止血術、下肢血管閉塞症における血流改善術などの多くの治療が可能となります。



バイブレーション血管造影システム

(シーメンス社製 Artis zee BA Twin)

脳外科領域の血管内治療に最適なバイブレーション血管造影システムを導入しました。脳梗塞における血栓回収療法や動脈瘤治療における血管内コイル塞栓術等の高度な治療にも、今以上により安全・迅速な治療を提供出来るようになります。また循環器領域におけるカテーテル検査・治療にも対応しています。



心エコー装置

Philips EPIQ7 (フィリップス社製)

フィリップス社の最上位機種です。従来の機種よりも格段に高画質で解像度もあがっており3次元エコーも可能になっています。同時に経食道エコープローブが導入され、経食道心エコーも可能になりました。また、電子カルテ上の画像ポータルで心エコーの動画が閲覧できるようになり、どこの端末でも心エコーの画像がみえるようになりました。病棟にも携帯型の心エコー装置(Philips CX50)が配備され、病棟のエコー診断に大きな力となっています。その他各所に最新のエコー装置を10台以上新しく導入します。



手術室

無影灯、手術台

(マッケ社製)

手術室には、世界一の手術器械メーカーのマッケ社の無影灯、手術台が装備されます。无影灯は高効率で、影が出来ない最高峰LED照明を採用しました。手術台は耐久性に定評のあるドイツ製で、あらゆる分野に適合します。将来のロボット手術にも対応し、新病院での高度医療を支えます。



上:
无影灯
下:
手術台

標榜
診療科

- 内科 ● 消化器内科 ● 呼吸器内科 ● アレルギー科 ● 循環器内科 ● 血液内科 ● 糖尿病内科
- 神経内科 ● 心療内科 ● 精神科 ● 外科 ● 呼吸器外科 ● 消化器外科 ● 血管外科 ● 整形外科
- 形成外科 ● 脳神経外科 ● 産婦人科 ● 眼科 ● 耳鼻いんこう科 ● 小児科 ● 皮膚科 ● 泌尿器科
- 麻酔科 ● 放射線科 ● リハビリテーション科 ● リウマチ科 ● 病理診断科 ● 救急科

地域医療連携室

「患者さんの幸せな人生のために」

いつでも相談できる地域医療連携室は強い味方。



地域医療連携室が担う地域と病院をつなぐ役目とは？

まず、患者さんやご家族、地域の方が相談できる場所としての役割です。医療や福祉制度などのさまざまなご相談をお聴きし、看護師と医療ソーシャルワーカーがサポートさせていただいております。また、地域の医療機関との窓口として、当院と地域医療をつなぐ役割も担っています。かかりつけ医の先生からの受診予約や救急受診についてご相談をお受けしており、必要に応じて地域医療連携室の看護師が医療相談を直接受けることも多くあります。他にも、当院とかかりつけ医がもつ機能をお互いに把握できるようアンケートにより情報を収集し発信したり、地域の医療従事者を対象にした研修会を開催したりしています。こうした地域の医療機関とのつながりを大切にして、地域医療の発展に貢献することが、患者さんへの支援にも活かされています。



連携の強さが退院支援でも力を発揮しているとか。

当院の地域医療連携室は、地域の医療機関からの紹介患者さんを受け入れる「前方支援」と、入院患者さんの退院支援を行う「後方支援」を、ひとつの部屋に置いています。患者さんの入院時、病棟看護師が退院支援スクリーニングシートによって、転院の必要な場合や在宅復帰するにあたり支援が必要な患者さんについては、地域医療連携室の医療ソーシャルワーカーと一緒に支援を開始します。退院支援はシステム化しており、院内外を問わず、多職種協働で行っています。できるだけ在宅に復帰できるよう、患者さんやご家族としっかりお話をし、地域のかかりつけ医へとつなげています。医療・

介護が必要な状態で退院される場合でも、訪問看護師、訪問薬剤師、通所リハビリ、デイサービス等を利用することで、在宅に復帰して困らないよう支援します。また、すぐに在宅での生活が難しい場合にも、地域に戻れるよう転院を含めて支援します。介護保険の申請から医療費の相談等、新病院内に新しく開設される「岡山市地域ケア総合推進センター」と連携し、介護・福祉にもつないでいく体制を整えています。

かかりつけ医をもちましょう！

二人主治医制 かかりつけ医の先生と市民病院が力を合わせて診察させていただきます

かかりつけ医とは「病気のときに普段からかかっている先生」のことです



地域医療連携室へのお問い合わせ先(5月7日より)

〒700-8557 岡山市北区北長瀬表町3丁目20番1号
岡山市立市民病院 地域医療連携室
(直通)TEL 086-737-3010 FAX 086-737-3011



困った時にいつでも相談できると聞きました。

新病院では、医療ソーシャルワーカーの増員があり、より相談体制が充実します。場所も北長瀬へと移りますが、地域の方と地域のための病院として、地域医療連携室を通じて信頼関係を築いていけたらと思っています。患者さんの人生の中で本当に大変な時ですから、これからの道筋を一緒に考え、患者さんが思う幸せな人生を歩めるようにお手伝いします。医師や看護師に言いにくいことでも、私たちに相談していただけたら院内でつないでいきますので、何かお困りのことがあったら地域医療連携室にご相談ください。

ことわらない救急医療を目指して。 地域の医療機関と連携して患者さんを支えます。

🌸 岡山ERはこれまでの救急医療とどこが違うのですか？

24時間365日、病気の領域や症状の重さにかかわらず、すべての患者さんを受け入れて初期診療を行うのがER（救急治療室）です。ここ数年、岡山市でも人口の高齢化とともに救急車の出動件数が急激に増え、救急における病気の診断や管理が難しくなっています。地域とともに“ことわらない救急”を目指すのが「岡山ER」コンセプトです。実際は救急総合診療科が中心となって各専門診療科と協力して救急センターを構成し、「岡山ER」を実践する形になります。新病院の1階、1400㎡もの広さに、診察用・処置用・観察用の各ブースにベッドを十分に設け、レントゲン検査やCT、MRI、内視鏡室も同じフロアに配置し、救急における待合や治療の質を向上させます。そして災害時医療の役割を担うべくDMAT（災害派遣医療チーム）も組織しています。

🌸 救急車は呼びづらいので、車やタクシーで行っても診てもらえますか？

もちろんです。救急車での診療だけでなく、ウォークイン（徒歩での受診）にも重点を置いています。ウォークインの救急患者さんのなかにも、重症の方や緊急性の高い方もいらっしゃいますので、救急医よりも先にトリアージナース（病気の重症度・緊急度を判断する看護師）が状態を観察し、緊急性の高い患者さんに迅速な対応ができるようにしています（診察の順番が変わることがあることについてはご理解ください）。

🌸 どのような先生が診てくれるのですか？

救急専門医・総合内科医が、各専門診療科医と協力することで、患者さんがどんな症状でも「安心」して受診できる救急を目指しています。専門性の高い先進医療大国の岡山において、専門性にとらわれない「総合内科」、「救急医療」こそ今後成長が期待される領域です。「岡山ER」は、救急医療や総合診療に熱意を持った若手医師を集め、将来の「総合内科医」、「救急専門医」を育成する役割も担っています。

🌸 症状が落ちついた後は、かかりつけの先生に紹介してもらえますか？

症状が落ち着いた軽症患者さんは、普段の生活管理が大切となるので、地域のかかりつけ医をご紹介します。他院での治療が望ましい場合や三次救命救急センター（岡山大学病院、岡山赤十字病院など）への転院が望ましい場合には、重症化を防ぐための初期対応を行った後に引き継ぎます。市民病院の各専門診療科に入院した際には、他の医療機関との役割分担・連携を行いながら、その後の病気の管理を行います。岡山地域全体で岡山市民の健康の安心に寄与するシステムづくりこそが「岡山ER」のテーマです。

岡山ERは新病院の1階南側にあります。広さは日本最大規模の1400㎡。トリアージ室1、診察室6、処置台6、観察台7と充実の設備です。救急待合室も必要な広さを整えました。救急車専用のロータリー（点線部分）も備えています。



救急車専用ロータリー周辺（平成27年3月20日撮影）



医師の高い技術に加え、最新鋭の設備を導入。
脳卒中治療では、最も手厚い体制が整う病院です。

★ 市民病院で受けられる最新の脳卒中治療を教えてください。

脳卒中には、脳の血管がつまる「脳梗塞」、そして脳の血管が破れて出血する「くも膜下出血」「脳出血」などがあります。市民病院では、救急と連動して脳卒中診療の充実に力を入れており、例えば脳梗塞の場合は、発症から4.5時間以内なら血栓を溶かす薬を投与（rt-PA療法）し、再開通しない場合は、カ



最新の血管造影装置 IVR-CT
(8ページで紹介)

テーテル手術で血栓を取ったり血管を広げたりする治療を行っています。また慢性期には開頭バイパス術を行うこともあります。どの段階でもすべて迅速な対応が可能で、最も手厚い体制が整う病院の一つです。

★ 脳血管内治療（カテーテル手術）の専門医が2名いると聞きました。

市民病院には、日本脳神経血管内治療学会の専門医と、その専門医を指導して育てる実力を持った指導医が計2名在籍し、カテーテル手術においてその高い技術力を発揮しています。脳疾患センターでは、こうした血管内治療をはじめ、脳・脊髄を含むほぼすべての脳疾患に対応しており、脳動脈瘤、脳腫瘍などの手術件数でも中四国で上位に位置しています。さらに新病院で導入される最新鋭の装置とシステムによって、画像の精度が増し、診断の迅速性、治療の確実性が格段にアップするので、患者さん側の負担も少なくなるでしょう。

初めてのリハビリ経験も支えます。
早期リハビリからベストゴールを目指して。

✿ 早くからリハビリを始めたほうがいいのはなぜですか？

安静に寝ていることは、筋肉や骨だけでなく脳、心臓、肺や体全体の機能を落とします。特に、高齢者の方では認知症がみられたり、筋力が弱くなったり、関節が固まって動かなくなったりする廃用症候群が短い時間の間にも進行しやすく、食事が上手に取れなくなって肺炎を起こすケースも少なくありません。そのため、手術をされた方でも動かしてよいところを探して運動を促し、機器をつかってでも起立に近い姿勢が取れるよう試みます。とくに脳卒中ではできるだけ早く訓練を開始することで効果が上がります。

✿ 手足の筋肉のつばりに^{けいしゆく}痙縮外来を行っていると聞きました。

脳卒中の後遺症の一つで痙縮という運動障害があります。手の指を握ったまま開くことができないといった、上肢や下肢の筋緊張のコントロールができない状態のことです。痙縮外来では装具の具体的な提案や痙縮の筋肉にボトックス®という薬剤を注射することで緊張をコントロールする治療を実施しています。時間がかかる治療のため、自主トレーニングが継続できる方でかかりつけの先生から紹介いただいた方に限定の外来治療です。痙縮治療を行うことで、リハビリや生活がしやすくなる効果が期待できます。



安全に歩行をサポートする機器

新しい治療薬が次々と誕生している分野です。
あらゆる血液の病気に対応しています。

🌸 抗がん剤を使うとその副作用がとても辛いのでは？

急性白血病や悪性リンパ腫には、強い抗がん剤を用います。従来の抗がん剤は、正常な細胞まで壊してしまうため副作用が強く出ていましたが、最近では分子標的薬といって悪性腫瘍の固有のタンパク質だけを攻撃する治療薬ができています。市民病院では、副作用がより少なくなった分子標的薬と従来の抗がん剤を組み合わせることで、それぞれのメリットを引き出す治療を行いながら、副作用や感染症などを予防する支持療法も併用しています。「副作用の管理がうまい」病院として日本一になったこともあります。



最高品質で最新鋭の無菌室

🌸 岡大病院と連携して治療をしている理由は？

東は姫路市から西は三原市までと岡山市の医療圏はかなり広く、岡大病院だけでは入院が必要な患者さんをすべて受け入れることができません。そこで、同レベルの治療を提供するために、岡大病院と市民病院で医療連携を進めてきました。現在は、それぞれの得意分野を活かして、岡大病院は移植医療を、市民病院では骨髄異形成症候群や急性白血病、リンパ腫などの患者さんを担当するという役割分担ができています。新病院になってもその役割が変わることはありません。

高い技術と専門性を持った技師が集結。
正確・迅速に結果が出せるように努めています。

🌿 技術と専門性の高さは大学病院に匹敵するほどだとか。

30名の検査技師が24時間体制で検査業務を行っています。認定資格保持者としては、細胞検査士2名、認定血液検査技師1名、認定輸血検査技師2名、二級臨床検査士（血液学）1名、超音波検査士は循環器と消化器で各4名が在籍。それぞれ分野で高い技術と専門性を発揮しています。市民病院では血液疾患の患者さんが多く、輸血も多いので血液検査や輸血検査に関してレベルが高く、また肝臓の生理検査やエコーによる腹部超音波検査・頸動脈検査でも高い技術を誇っています。

🌿 特に定評のあるフローサイトメトリー検査とは？

細胞の表面にある抗原を解析するフローサイトメーターを導入して、白血病や悪性リンパ腫などの血液疾患の分類や移植に必要な造血細胞の検査を行い、正確な診断・治療に役立てています。新病院では、血球計測装置や生化学分析装置、エコーなどの検査装置を増やして、より多くの検査が行える体制を整えていきますので、患者さんの待ち時間も減ることと思います。私たち技師もさらにレベルアップして、正確かつ迅速に検査結果が出せるように努めていきます。

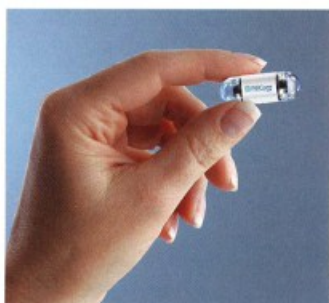


臨床検査室

お腹が痛い時こそ、「早く診る」「適切な治療」が大事。
体に負担の少ない検査・手術にも取り組んでいます。

🌿 より正確に診断できる最新の内視鏡で、楽に検査が受けられるそうですね。

患者さんの負担を少なくする検査機器や、より正確に診断できる新しい技術を積極的に取り入れています。口から内視鏡を入れるのが辛いという方には、カプセル内視鏡(小腸用・大腸用)を選んで



カプセル内視鏡(小腸用・大腸用)

いただくことができます。また、新たに導入した内視鏡システムNBI(狭帯域光観察)は高性能・高画質を誇り、より早期のがんをより早く正確に診断できるようになりました。しかも、鼻から挿入するので楽に検査を受けていただけるというメリットもあわせ持っています。

🌿 外科手術の場合も、体に負担の少ない方法が採られているのですか？

痛みが少なく傷が目立たない腹腔鏡手術を行っています。腹部に4～5カ所の小さな穴を開けて、そこからカメラや電気メスなどの専門の器具を入れて切除手術を行うというものです。開腹手術の時よりも回復までの時間が約半分ほど短く、胃・大腸・膵臓などでは1カ月かかっていた期間が約2週間に、1週間かかっていた胆のうは約3日で退院できるようになりました。治りが早く、社会復帰も早期にできます。腹腔鏡手術ができない場合もありますので、その場合は開腹手術となります。

肝臓がんの原因・治療方法は大きく変化。
予備軍の方は、年に1回は画像診断を。

🌸 肝臓がんを治療する
「ラジオ波焼灼療法」「肝動脈塞栓療法」とは？

ラジオ波焼灼療法は、皮膚の上から細い針状の電極を刺してラジオ波の熱でがん細胞を固めて治療する方法です。体を切らない治療法なので患者さんへの負担が軽く、市民病院では2500例の実績があります。なかでも、肝臓の最も深い位置にある尾状葉へのラジオ波焼灼療法は100例ほどあり、これは日本でも3本の指に入る症例数になります。進行したがんに対しては、肝動脈の血管にカテーテルを通して抗がん剤を投与した後、がん細胞に栄養を送る血液の流れを止めてがん細胞を壊死させる肝動脈塞栓療法も行っています。



尾状葉肝細胞がんに対するラジオ波焼灼療法

🌸 肝臓がんに行進するC型肝炎やB型肝炎は、もうすぐ治る病気になるそうですね。

C型肝炎については、2015年に多くの新薬が登場する予定で、完治できる病気として先が見えてきました。B型肝炎も抗ウイルス薬が進歩し、薬のコントロールによって発がんや肝硬変を抑えられるようになっています。そのかわりに増えているのが「アルコール性肝障害」と「非アルコール性脂肪肝炎」です。自覚症状がないため、気づかいうちに肝硬変、肝臓がんへと進んでいくので非常に危険な病気です。見落としが多い病気なので、半年に1回は画像診断を受けることをお勧めします。

最新の薬物療法と早期発見で治る病気に。 患者さんの一生を病院全体でサポートします。

🍀 飛躍的に進歩した現在のリウマチ治療とはどんなものですか？

免疫異常によって関節に炎症が起こり、進行すると骨が変形してしまうのが関節リウマチです。今までは進行を遅らせて痛みをやわらげる治療しかできなかったのですが、免疫抑制剤やバイオ製剤の開発によって骨や関節の変形の進行を抑制できるようになりました。ただし、良い薬には副作用もあります。内科と共に患者さんの状態をしっかりと診て、副作用が小さいうちに摘み取ることはもちろん、ERとも連携して副作用に対応できる体制を整えています。

🍀 リウマチ教室やリウマチケア入院を行っているのはなぜですか？

40年以上前からリウマチ治療に取り組んできた歴史ある病院として、治療の4本柱（生活習慣を整える基礎療法、薬物療法、手術療法、リハビリテーション）の充実に取り組んでいます。発病したばかりの患者さんは薬物療法で関節の変形の予防を。関節の変形が進んだ患者さんは、生活の質を高めることが目標になります。自分に合った治療や目標を見つけることが大切になるため、病気の正しい知識や最新治療を知っていただくリウマチ教室を毎月開催。生活習慣病などをチェックするリウマチケア入院も始めています。

早期関節リウマチの 診断基準 (日本リウマチ学会による)

- ①朝のこわばり ②3関節以上の圧痛または他動運動痛
- ③2関節以上の腫脹 ④リウマトイド結節
- ⑤赤沈値20mm以上の高値またはCRP陽性
- ⑥リウマトイド因子陽性

い知識や最新治療を知っていただくリウマチ教室を毎月開催。生活習慣病などをチェックするリウマチケア入院も始めています。

予防が大切、治療すれば怖くない。 地域全体の糖尿病合併症改善を目指して。

🍀 チーム医療に力を入れているのはなぜですか？

糖尿病は進行すると合併症を発症する恐ろしい病気です。当センターでは総合病院としての利点を活かし、内科、眼科、リハビリテーション科、薬剤部、栄養科、臨床検査技師、看護師、臨床心理士など多職種で総合的な診療を行うとともに、地域の開業医とも連携し糖尿病治療と合併症予防に取り組んでいます。特に、手術前後は血糖コントロールが重要で、死亡率が約3割変わると言われています。また手術後の傷の回復が遅いと感染症にかかる可能性も高まるため、手術面でもチーム医療が力を発揮しています。

🍀 ケア外来や臨床心理士による糖尿病教室の効果も大きいとか。

医師、看護師、栄養士がチームとなり、透析予防やフットケア、注射指導など総合的なケアを外来で行っています。妊娠糖尿病は産婦人科と同時に受診できるよう妊娠糖尿病外来を用意。また臨床心理士による面接や糖尿病教室も開催しています。根底にあるストレスによる過食や喫煙などに対し心理的にアプローチすることで予防につなげています。近年、臨床心理士の関与が生み出す効果が認められ評価されていますが、糖尿病チームに参加している施設はまだ少ないため、その育成にも取り組んでいます。

糖尿病食は
健康食です！



体に負担の少ない最新治療の強化

● IVRセンターの“IVR”って何ですか？

IVRとはインターベンショナル・ラジオロジー(Interventional Radiology)の略で、画像診断(X線透視、超音波、CT、MRIなど)を施行しながらカテーテルという細い管や針を操作して病気を治す先端的治疗です。心臓疾患、脳血管疾患、肝臓がんを始め多臓器のがん治療、下肢血管疾患に加え、外傷性腹腔内出血の緊急止血術など、より専門性の高い治療の提供ができます。また、緊急対応が可能で、患者さんの体の負担も少なく、正確に治療でき、入院期間も短縮できるなど優れた特徴を持っています。



最新の血管造影装置を使用したヴァーチャルステント（治療前の患者さんの血管造影にステントのCGを合成し最適なデバイスを予想）

● IVRセンターが新設された理由は？

救急医療の充実に大いに貢献するものと考えられたことが新設の大きな理由です。近年の『切らずに治す』IVRの発達はめざましく、あらゆる診療科において重要な治療手段の一つとなっています。IVRを行う上で最も重要な機器は血管造影装置であり、新病院のIVRセンターには2台の最新の装置が導入されます。また、循環器内科4名、IVR専門医1名が新たに加わるほか、専属の看護師、診療放射線技師、臨床工学士などの医療系スタッフがさらに充実しますので、患者さんに、これまで以上に安全かつ確実なIVR治療を提供することができると考えています。

中四国・九州では初となる最上級CTの導入など、ほとんどすべての検査機器を一新。

● 中四国・九州で初導入される最新CTのメリットは？

CTとはコンピュータ断層撮影法のことで、X線を照射することで身体の断面を画像化し、病気発見につなげる機器です。最新の最上級機種を導入することで、より短時間（全身が2秒）で高精度の画像撮影や今までできなかった物質の成分分析（例／尿管結石の成分分析など）ができるようになります。検査の質が向上することはもちろんですが、じっとしていることが苦手な子どもや意識のない方、さらには心臓検査に対してよりスピーディーに撮影でき、しかも被ばく線量を抑えるというメリットがあります。

● 負担が少なく、より便利な体制が整うのですね。

MRIについても最新の最上級機種を導入することで、音は70%軽減。よりワイドになって体の大きな方や閉所恐怖症の方も安心して検査を受けていただけるようになります。また、最新の一般撮影ポータブル機器での検査結果は、2～3秒でポータブル機器の手元にあるパソコンにて画像が確認できるので、特にER（救急室）では大きな機動力を発揮するものと思われます。また、かかりつけ医の方に向けてはネットでの予約システムを導入します。早期診断に向けて技術を高めながら、各所との協力関係を築くことにも取り組んでいきます。



MRI装置 MAGNETOM Skyra 3T
(8ページで紹介)

産婦人科

新しい市民病院でお産をしませんか？ “自然に生まれて来る力”を応援します。

✿ 新病院ではフリースタイル出産が選べるそうですね。

市民病院では、ママと赤ちゃんにもともと備わっている“自然に生まれて来る力”を最大限発揮できるようにサポートをしています。できるだけ自然に、安楽に生めるように助産院をイメージした量のLDR(陣痛室・分娩室・回復室が一体の個室)を用意。横向きでも四つん這いでも、転げ回っても大丈夫。自宅のようにリラックスでき、ご家族と一緒にアットホームな雰囲気の中でお産ができます。もちろん分娩台があるLDRも選べます。また、陣痛を和らげるために、LDRでは珍しく湯船を備えた浴室を備えています。

✿ 「助産師外来」「産後ケア入院」について教えてください。

正常経過の方の妊娠22週から40週までの妊婦健診を、助産師が医師と交互に担当する「助産師外来」を完全予約制で行っています。最新の4D画像胎児超音波で赤ちゃんの様子を鮮明なカラー動画で見たり、医師の妊婦健診後には経験豊富な助産師に相談ができます。また、産後1カ月までなら誰でも利用できる「産後ケア入院」では、授乳や沐浴などの育児指導をはじめ、予防接種や乳児健診のプランニング、低料金でアロママッサージなども行っています。育メンの参加、他院で出産された方の利用也大歓迎です。



4D画像胎児超音波(右)で見た赤ちゃんの様子(左)

小児科

信頼性の高い診断方法や検査機器を導入し、 免疫異常や喘息の管理・治療を行っています。

♡ 食物アレルギーの治療方法が新しくなっているそうですね。

時には命の危険性もあるのが食物アレルギーです。原因食物を調べるには血液検査や皮膚検査などが行われますが、市民病院では最も信頼性の高い診断方法である「食物負荷試験」を行っています。原因食物を明らかにして食べないようにするだけではなく、食べられる範囲や量を正確に診断した上で耐性獲得に向けて治療と食事指導を行い、成長とともに食べられるようになることをめざします。より安全に行うために1泊2日入院もありますのでご相談ください。

♡ 小児気管支喘息も症状管理から数値管理に変わってきたと聞きました。

今までは「ぜんそく手帳」に書かれた症状を頼りに治療するというものでしたが、「呼吸機能検査」によって症状を客観的な数値で判断・管理する治療に変わってきています。お子様でも簡単に検査できるように、検査装置は小型のポータブルサイズ。呼気の中の一酸化窒素濃度を測定することによって炎症度合いがわかるので、数値や状況を親御さんと共有しながら治療を進め、症状が出ないようにコントロールしていく予防的治療へとつなげています。



一酸化窒素ガス分析装置 NIOX MINO(ナイオックスマイノ)

看護部

患者さんの状態を誰よりも把握し、
望まれている思いを受け止められる存在に。

❁ 患者さんへの看護で大切にしていることは何ですか？

看護師は、医師からの指示に基づいて診療の補助を行っています。指示されたままを行うのではなく、患者さんの病状や食事の量、また痛みの度合いや眠れないなどの話を伺い、状態を把握した上で、適切かどうかを判断して行っています。看護師は自ら治療したり薬を使ったりすることはできませんが、患者さんの手を握り、話に耳を傾けることで、患者さんの心のもやが晴れて、がんばってみようという気持ちになってもらえるようなケアを実践していきたいですね。「看護の原点」を私たちは大切にしています。



今年度から約70名が加わり、
420名の看護師が勤めています

❁ 新病院の病室には、看護師の意見がたくさん反映されているそうですね。

病棟・病室の設計にあたり、看護師たちが患者さんの立場になって、実際にベッドに寝てみたり車いすを使ったりしながら、ベッドの配置から窓の位置、洗面所、コンソールやワードローブの位置、壁の材質や色、ベッドサイドの灯、トイレペーパーの位置にいたるまで意見を出させていただきました。新病院では、快適な療養環境をご提供できることと思います。新病院に移ってもアットホームな伝統を大切にしながら、今のニーズに合うように患者さんとの一期一会を大切にしていきたいですね。

薬剤部

顔の見える薬剤師をめざして。お薬を通して
患者さんに安全・安心・良質な医療の提供を目指します。

✕ 調剤以外にどのような仕事をされていますか？

薬剤部の役割は、医薬品の供給と調剤、薬学的患者ケアを行うことです。院内の各種医療チームと協同しながら、薬の安定確保や、医療スタッフだけでなく患者さん自身に薬の適正使用に必要な情報を提供する服薬支援も行っています。薬剤部では、入院・外来の患者さんへ最善の薬物療法を提供できるよう各部門と連携し、患者さん本位の薬剤業務を目指しています。また、院内だけでなく地域医療の中での役目も重要です。患者さんが入退院を通じてより安全にお薬が使用できる様、他施設の薬剤師や調剤薬局との連携も進めています。



左：注射薬自動払出装置（アンブルピッカー）
右：自動錠剤分包機



✕ 新病院で設置される サテライト薬局とは何ですか？

医師や看護師とより密に連携し、患者さんに適切な薬を処方するために各病棟フロアに薬剤師を順次配置します。これがサテライト薬局です。病棟に常駐しますので患者さんにも薬に対する不安などの相談を気軽にしていただけられるようになります。患者さんに接する機会を増やして、顔の見える薬剤師として入院中の不安をひとつでも多く解消してあげたいですね。

医師紹介

科名	役 職	医師名・卒業年	認定医／専門医／指導医等	
内 科				
	診 療 部 長	難 波 次 郎 昭和59年卒	日本内科学会認定医・指導医 消化器病学会専門医 消化器内視鏡学会専門医・指導医	臨床研修指導医 認定産業医
	診 療 部 長	前 川 清 明 昭和59年卒	日本内科学会認定医 循環器学会専門医	臨床研修指導医
消化器内科	主 任 部 長	能 祖 一 裕 昭和61年卒	日本内科学会認定医・指導医・中国支部評議員 日本消化器病学会専門医・指導医・評議員 日本肝臓学会専門医・指導医・評議員 日本超音波医学会中国地方会幹事 日本がん治療認定医	日本肝がん分子標的治療研究会世話人 消化器癌集学的治療研究会世話人 岡山大学医学部医学科臨床教授 岡山大学医学部医学科非常勤講師 岡山大学病院診療講師
	内 科 部 長	狩 山 和 也 平成3年卒	消化器病学会専門医・指導医・中国支部評議員 消化器内視鏡学会専門医 臨床研修指導医 日本内科学会認定医・指導医	日本肝臓学会専門医・指導医 岡山大学医学部医学科臨床准教授 日本超音波医学会認定超音波専門医
	部 長	西 村 守 平成3年卒	日本内科学会認定医・指導医 消化器病学会専門医・指導医・中国支部評議員 消化器内視鏡学会専門医・指導医・中国支部評議員 臨床研修指導医	日本肝臓学会専門医・指導医 日本がん治療機構認定医 岡山大学医学部医学科臨床准教授 日本ヘリコバクター学会認定医
	医 長	湧 田 暁 子 平成13年卒	消化器病学会専門医 消化器内視鏡学会専門医	日本内科学会認定医 肝臓学会専門医
	医 員	景 山 宏 之 平成18年卒	日本内科学会認定医 消化器病学会専門医 日本消化管学会胃腸科認定医・専門医・指導医	日本消化器内視鏡学会専門医 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
	医 員	土 肥 雄 紀 平成20年卒	消化器病学会専門医 日本内科学会認定医	日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医
	医 員	森 本 光 作 平成24年卒		
	医 師	大 西 理 乃 平成21年卒		
血液腫瘍内科	副 院 長	今 城 健 二 昭和58年卒	日本内科学会指導医 臨床研修指導医 先端医療研究支援機構アドバイザーボード 岡山大学医学部医学科臨床教授 岡山大学医学部医学科非常勤講師	日本臨床腫瘍学会暫定指導医 日本がん治療認定医機構暫定教育医 日本血液学会中四国地方会評議員・監事 認定産業医
	主 任 医 長	山 本 和 彦 平成6年卒	日本内科学会認定医・指導医 日本血液学会専門医	臨床研修指導医 岡山大学医学部医学科臨床准教授
	医 長	塩 手 康 弘 平成9年卒	日本内科学会認定内科医	
	医 長	新 谷 大 悟 平成12年卒	日本内科学会認定内科医 日本血液学会専門医	
	医 長	山 本 宜 和 平成14年卒	日本内科学会認定内科医 消化器病学会専門医	
	医 員	池 内 一 廣 平成25年卒		
糖尿病内科	部 長	安 藤 晋一郎 平成元年卒	日本内科学会認定医・専門医・指導医 日本心身医学会専門医 日本内分泌学会専門医・指導医 日本糖尿病学会専門医・指導医 臨床研修指導医	認定産業医 岡山大学医学部医学科臨床准教授 日本病態栄養学会専門医 ICD制度協議会認定 ICD (Infection Control Doctor)
	医 員	浜 原 潤 平成19年卒	日本内科学会認定医 日本糖尿病学会専門医	
	医 員	本 多 寛 之 平成22年卒	日本内科学会認定内科医	
	医 員	高 橋 順 子 平成24年卒		
総合内科	主 任 医 長	岸 田 雅 之 平成6年卒	日本内科学会認定医・専門医・指導医 日本内分泌学会専門医 臨床研修指導医 日本病態栄養学会専門医	日本甲状腺学会専門医 岡山大学病院総合内科客員教授 日本プライマリ・ケア学会認定医・指導医 岡山大学医学部医学科臨床教授
	医 長	菅 波 由 有 平成12年卒	日本内科学会認定医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会 日本消化器内視鏡学会	日本肝臓学会 日本糖尿病学会 日本感染症学会 岡山大学医学部医学科臨床講師
	医 員	片 山 貴 平成18年卒	日本内科学会認定医 医師会認定産業医 日本リウマチ学会専門医	日本消化器病学会専門医 日本病態栄養学会専門医
	医 員	森 本 栄 作 平成22年卒	日本内科学会認定内科医	
	医 員	山 崎 賢 士 平成23年卒		

科名	役 職	医師名・卒業年	認定医／専門医／指導医等	
総合内科	医 員	佐 野 真 一 平成25年卒		
	医 員	涌 波 優 平成25年卒		
循環器内科	医 長	河 合 勇 介 平成12年卒	循環器学会専門医 総合内科専門医	日本心血管インターベンション治療学会認定医
	医 員	時 岡 浩 二 平成17年卒	日本内科学会認定内科医	
	医 員	小 野 環 平成19年卒	日本内科学会認定内科医	
	医 員	山 本 圭 亮 平成24年卒		
内呼吸器科	主 任 医 長	讓 尾 昌 太 平成8年卒	日本内科学会総合内科専門医	
神経内科	医 長	出 口 健太郎 平成11年卒	日本内科学会認定内科医 日本神経学会神経内科専門医	日本脳卒中学会専門医 臨床研修指導医
	医 師	名古屋 章 子 平成12年卒	日本内科学会認定内科医 日本神経学会神経内科専門医	日本脳卒中学会専門医
内科心療	部 長	岡 部 伸 幸 平成4年卒	精神保健指定医 臨床研修指導医	コンサルテーション・リエゾン精神医学 精神腫瘍学
膠原病内科・リウマチ	医 長	若 林 宏 平成11年卒	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・中国支部評議員 日本リウマチ学会専門医・指導医 岡山大学医学部医学科臨床准教授	
内分泌代謝内科	主 任 医 長	岸 田 雅 之 平成6年卒	日本内科学会認定医・専門医・指導医 日本内分泌学会専門医 臨床研修指導医 日本病態栄養学会専門医	日本甲状腺学会専門医 岡山大学病院総合内科客員教授 日本プライマリ・ケア学会認定医・指導医 岡山大学医学部医学科臨床教授
	医 員	片 山 貴 平成18年卒	日本内科学会認定医 医師会認定産業医 日本リウマチ学会専門医	日本消化器病学会専門医 日本病態栄養学会専門医

外科

外科・消化器外科	副 院 長	濱 田 英 明 昭和50年卒	日本外科学会認定医・専門医 日本消化器外科学会認定医・指導医・消化器がん外科治療認定医	岡山県医師会乳がん検診認定医 岡山大学医学部医学科臨床准教授
	診 療 部 長	松 前 大 昭和54年卒	外科学会認定医・専門医 胸部外科学会認定医	
	部 長	寺 本 淳 平成4年卒	外科学会認定医・専門医 検診マンモグラフィ読影医師(B)	臨床研修指導医
	主 任 医 長	大 村 泰 之 平成4年卒	医学博士 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医	日本がん治療認定医 日本胃癌学会 日本肝胆膵外科学会 日本臨床外科学会 臨床研修指導医
	主 任 医 長	小 谷 一 敏 平成6年卒	日本外科学会専門医 日本呼吸器外科学会専門医	臨床研修指導医
	医 長	鈴 木 宏 光 平成9年卒	日本外科学会専門医	
	医 員	中 川 真 理 平成25年卒		

整形外科

整形外科	副 院 長	臼 井 正 明 昭和58年卒	日本整形外科学会専門医 日本リウマチ財団登録医 日本リウマチ学会認定医・指導医・評議員	日本人工関節学会評議員 臨床研修指導医
	部 長	山 名 圭 哉 平成2年卒	日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄病医 日本脊椎脊髄病学会指導医 日本リウマチ学会認定医	日本体育協会スポーツドクター 日本リハビリテーション医学会専門医 臨床研修指導医
	主 任 医 長	吉 鷹 輝 仁 平成8年卒	日本整形外科学会専門医	
	医 長	木 浪 陽 平成9年卒	麻酔科標榜医 日本整形外科学会専門医 日本体育協会スポーツドクター	日本救急医学会専門医 臨床研修指導医
	医 長	檜 崎 慎 二 平成14年卒	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医	
	医 員	根 津 智 史 平成22年卒		
	医 員	沖 田 駿 治 平成23年卒		

科名	役 職	医師名・卒業年	認定医／専門医／指導医等
リハビリテーション科			
リハビリテーション科	主任 医 長	難 波 孝 礼 平成7年卒	リハビリテーション科専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医 臨床研修指導医

脳神経外科			
脳神経外科	院 長	松 本 健 五 昭和52年卒	日本脳神経外科学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医 岡山大学医学部医学科臨床教授
	主任 部 長	徳 永 浩 司 昭和63年卒	日本脳神経外科学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医 岡山大学医学部医学科臨床准教授 臨床研修指導医
	主任 医 長	桐 山 英 樹 平成6年卒	日本脳神経外科学会専門医 日本救急医学会専門医 日本脳卒中学会専門医 日本頭痛学会専門医 JATECインストラクター JPTECインストラクター ISLSファシリテーター 臨床研修指導医
	医 長	渡 邊 恭 一 平成10年卒	日本脳神経外科学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医 ISLSファシリテーター 臨床研修指導医
	医 長	井 上 智 平成13年卒	日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 ISLSファシリテーター 臨床研修指導医
	医 員	大 谷 理 浩 平成21年卒	
	医 員	河 内 哲 平成25年卒	

産婦人科			
産婦人科	診 療 部 長	小 橋 勇 二 昭和55年卒	日本産婦人科学会認定医 臨床研修指導医
	医 員	新 家 朱 理 平成13年卒	日本産婦人科学会専門医
	医 員	根 津 優 子 平成18年卒	日本産婦人科学会専門医

眼 科			
眼 科	診 療 部 長	坂 口 紀 子 昭和54年卒	日本眼科学会専門医 岡山大学医学部医学科臨床教授
	主任 医 長	伊 丹 雅 子 平成5年卒	日本眼科学会専門医 日本網膜硝子体学会POT認定医

小児科			
小児科	部 長	萬 木 章 平成3年卒	日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会専門医・指導医 PALSプロバイダー NCPRプロバイダー 日本リウマチ学会専門医 臨床研修指導医 インфекションコントロールドクター
	主任 医 長	岡 田 雅 行 平成6年卒	日本小児科学会小児科専門医 日本血液学会 血液専門医 PALSプロバイダー 臨床研修指導医
	主任 医 長	伊 藤 周 代 平成8年卒	小児科学会専門医 臨床研修指導医
	医 員	新 治 文 子 平成20年卒	小児科学会専門医

耳鼻いんこう科			
耳鼻いんこう科	医 員	木 林 並 樹 平成12年卒	耳鼻咽喉科専門医
	医 師	野 田 洋 平 平成16年卒	耳鼻咽喉科専門医

皮膚科			
皮膚科	医 長	川 上 佳 夫 平成9年卒	日本皮膚科学会専門医 臨床研修指導医 日本乾癬学会会員 日本接触皮膚炎学会会員 日本褥瘡学会会員 岡山大学医学部医学科臨床准教授
	医 員	光 井 聖 子 平成22年卒	

科名	役 職	医師名・卒業年	認定医／専門医／指導医等
泌尿器科			
泌尿器科	診療部長	津 川 昌 也 昭和57年卒	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本化学療法学会評議員 日本泌尿器内視鏡学会評議員 ICD制度協議会認定 ICD (Infection Control Doctor) 日本泌尿器科学会西日本支部評議員 日本がん治療認定医機構認定教育医 泌尿器腹腔鏡技術認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医(泌尿器腹腔鏡) 医療メディエーター Basic 臨床研修指導医
	主任医長	石 井 和 史 平成6年卒	日本泌尿器科学会専門医・指導医

麻酔科			
麻酔科	医 局 長	越 智 辰 清 昭和55年卒	麻酔科標榜医(厚生労働大臣認定) 日本麻酔科学会麻酔科・専門医 臨床研修指導医 岡山大学医学部医学科臨床教授
	主任部長	木 村 雅 一 昭和57年卒	麻酔科標榜医(厚生労働大臣認定) 日本麻酔科学会麻酔科・専門医・指導医 緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了 臨床研修指導医
	医 長	渡 邊 陽 子 平成10年卒	麻酔科標榜医(厚生労働大臣認定) 日本麻酔科学会麻酔科認定医・専門医・指導医
	医 長	谷 岡 野 人 平成15年卒	麻酔科標榜医(厚生労働大臣認定) 日本麻酔科学会麻酔科認定医・専門医
	医 師	小 原 祐 子 平成元年卒	麻酔科標榜医(厚生労働大臣認定) 日本麻酔科学会麻酔科認定医・専門医

放射線科			
放射線科	主任部長	上 田 裕 之 昭和59年卒	医学放射線学会専門医 岡山大学医学部医学科臨床准教授
	部 長	羽 原 理 佐 平成2年卒	医学放射線学会専門医
	医 長	石 井 裕 朗 平成14年卒	医学放射線学会専門医 検診マンモグラフィ読影認定医(B) 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医

病理・臨床検査科			
臨床検査科・病理	医 長	小 田 和歌子 平成9年卒	日本病理学会病理専門医 日本臨床細胞学会 細胞診専門医 死体解剖資格 病理専門医研修指導医

救急センター			
救急センター・救急科	センター長	桐 山 英 樹 平成6年卒	日本救急医学会専門医 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 日本頭痛学会専門医 JATECインストラクター JPTECインストラクター ISLSファシリテーター 臨床研修指導医
		芝 直 基 平成17年卒	日本救急医学会専門医
		安 藤 美 穂 平成18年卒	日本救急医学会専門医
		木 浪 陽 平成9年卒	日本救急医学会専門医 麻酔科標榜医 日本整形外科学会専門医 日本体育協会スポーツドクター
		前 川 清 明 昭和59年卒	日本内科学会認定医 循環器学会専門医 臨床研修指導医
		菅 波 由 有 平成12年卒	日本内科学会認定医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会 日本消化器内視鏡学会 日本肝臓学会 日本糖尿病学会 日本感染症学会 岡山大学医学部医学科臨床講師

センター			
科 名	センター長医師名	科 名	センター長医師名
救 急 セ ン タ ー	桐 山 英 樹	消化器疾患センター	西 村 守
血液・腫瘍センター	今 城 健 二	肝 疾 患 セ ン タ ー	狩 山 和 也
リウマチセンター	臼 井 正 明	脳 疾 患 セ ン タ ー	徳 永 浩 司
I V R セ ン タ ー	徳 永 浩 司	リハビリテーションセンター	難 波 孝 礼
糖 尿 病 セ ン タ ー	安 藤 晋一郎	ドック・健診センター	難 波 次 郎

26年度研修医	27年度研修医
岡 浩 介 平成26年卒	大 野 凌 平成27年卒
岡 崎 洋 介 平成26年卒	大 山 矩 史 平成27年卒
長 田 有 生 平成26年卒	塩 田 祥 平 平成27年卒
諸 國 元太郎 平成26年卒	平 野 秀 一 郎 平成27年卒
三 宅 望 平成26年卒	古 林 佳 恵 平成27年卒

平成27年5月7日から

ACCESS MAP 新市民病院までのアクセス



JR 山陽本線で岡山駅より北長瀬駅まで約4分

バス [岡山駅より北長瀬駅前まで]

- 岡電バス: 平田・北長瀬駅行き 約35分(1日16便)
- 岡電バス・下電バス: 北長瀬駅行き・中庄駅行き 約20分(1日2便)
- 中鉄バス: 北長瀬駅前・中庄駅行き 約20分(1日3便)

車 ● 岡山駅から約4km、約10分 ● 山陽自動車道岡山ICから約8km、約20分

新住所 〒700-8557 岡山市北区北長瀬表町3丁目20番1号 TEL 086-737-3000 (5月7日より)

ホームページ 地方独立行政法人 岡山市立総合医療センター <http://okayama-gmc.or.jp/>

